

6/8(土) まいど、倫理号です。働く事は当然の事、その喜びは偉大な事
一役、二度は出来ても社会が度を超えてしまえば実践は伴々大変です。

今週の倫理 982号

出来たらいいですね。

2016.6.18 ~ 6.24

喜んで進むアホ鳥

喜働の社風を つくるのは誰？



え・たむらかずみ

六月のテーマ

喜んで行なう

今 日一日、朗らかに安らかに
喜んで進んで働きます——。

これは経営者モーニングセミナー
で斉唱する実践の決意です。

斉唱なら誰でもできますが、実
行するのは簡単ではありません。
自分に不都合なことが起きても、
朗らかに、喜んで、行動できるで
しょうか。不足不満や責め心に支
配されている時は、いかにして心
を転じるかが、自己成長を促し、
現状を突破する鍵となります。

W氏は税理士事務所を開業して
います。精力的に働き、開業十年
で、目標だった売上一億円と社員
十名を達成しました。当時はすべ
てが順調で、毎日が楽しく、「オレ
はすごい。何でもできる」と思う
ようになっていました。

絶対調だった矢先、ある社員か
ら退職願いが出されました。「自分
についてこない社員はいらない」
と気にしませんでした。その後
七カ月間、毎月一人ずつ退職して
いくのです。空っぽの席が増え、
仕事の負担がのしかかる中、日増
しに責め心が強くなります。やる

ことなすこと空回りしていきます。
一時は社員が数名になり、事務所
を閉めることも考えました。

その頃、仲間から勧められて、
富士高原研修所での経営者倫理セ
ミナーを受講しました。そこで「傾
聴（けいちよう）」と呼ばれる講義
があり、積極的に相手の話を聴く
実習の中、これまでいかに自分が
人の話を聞いていなかったかに気
がついたので。

また、思い通りに動かない社員
にイライラを募らせていたことに
思い至りました。社員を叱責し、
やる気を削いでいたのは自分だっ
た。事業がうまくいった慢心の中、
自分がいかに私の強い人間であつ
たかを反省したのです。

帰社後、まず社員への挨拶を率
先するようになったW氏。そして、
壁に向いていた机を社員の方に向
け、話しかけられた時は手を休め
て、顔を向けて話を聞くようにし
ました。すると、これまで「ダメ
なヤツばかり」と思っていた社員
が愛おしく思えてきたのです。
また、会話の中で、劳いの言葉

が自然と口をつくようになりまし
た。コミュニケーションが深まる
につれて、社員に仕事を任せられ
るようになり、自身の仕事も喜ん
でできるようになりました。やが
て、社内全体が、朗らかな空気へ
と変わってきたのです。

現在は開業十年時より売上、社
員数ともに増え、グループ展開を
するまでに事務所は大きくなりました。
以前より取り入れていた「活
力朝礼」も、社内委員会を立ち
上げ、社員主導に切り替えました。
今では社員自身が「気づく力」を
養う場として活用されています。
「よい人材が育っておられます
ね」と、お客様から褒められる機
会も増えたといいます。

「自分がつくり上げた」と思っ
ていた職場が、実は皆のお陰である
ことに気づくことができました。
経営者の役割は、社員が朗らかに
喜んで働ける職場にすることだっ
たのです」とW氏は語ります。
社員が喜んで働ける「喜働」の
社風をつくるのは、会社の中心者
である経営者の心なのです。